

# 電気、熱の自給目指す

われの身近にある生物資源から熱や電気を  
つくり出すバイオマスエネルギー。地球温暖  
化防止の取り組みの中で、再生可能なエネル  
ギーへの注目度は、このところの原油価格高  
騰も後押しする形でさらに高まっている。山  
形新聞、山形放送は「こしの八大事業」として、



バイオエネルギーの導入に  
積極的なドイツの実情を探  
るため、先月、取材班を派  
遣した。以下はそのリポー  
ト。(最北総支社長・丹哲人)

△△1

## バイオエネルギーの可能性

環境先進国ドイツに学ぶ



ブランデンブルクさん  
(左)はこう言って、分厚  
いサイン帳を見せてくれ  
た。カナダ、アメリカ、  
オーストラリア、日本と、  
海外からの訪問客も多  
い。  
ドイツのほぼ中央部。

人口わずか八百人足ら  
ずの農村が今、世界から  
注目を浴びている。

「そりゃ反響にはびっ  
くりしています。こんな  
小さな村に、あなたたち  
のような視察者が去年は  
二千五百人、ことしは既  
に三千人を超えているん  
ですから」。村長ニク  
ザクセン州)は、ドイツ  
年目になるアウグスト・

# 人口800人、視察相次ぐ

### 典型的な農村

人口規模や家々が比較  
的まとまっていることな  
ら、ユニオンは日本  
的な感覚では村というよ  
り集落、あるいは地区と  
いうイメージに近い。村  
には、村の酪農家から集  
めた家畜の排せつ物と、  
さまざまな麦、野菜畑、牧  
草地で囲まれ、ドイツの  
ロコシなどを交ぜ合わせ  
てガスを発生させるバイ  
オガス発電施設。発電の  
オカス発電施設。発電の



冬も問題なし  
熱消費量の多い冬場は  
木質チップを燃やすチッ  
プボイラーで補う。「昨  
冬はマイナス一五度から  
一八度になる日が続いた  
が、全く問題なかった。  
チップボイラーを使った  
のも数日」とブランデン  
ブルク村長。  
村の利用者の一人、電  
気技師のバート・シュレ  
ーが、バイオエネル  
ギーの導入を促す背景は



「化石燃料を使っ  
ているから、何より環  
境問題が大きい」  
ドイツのどこに  
あるような農村ユ  
ニオン村が広がる

ユニオン村が広がる

## 国内初の試み・ユーンデ村 温水パイプが各戸へ

国内初の試み・ユーンデ村  
温水パイプが各戸へ